

# 船舶事故等調査報告書（軽微）

1	船舶事故	計	82件
2	船舶インシデント	計	13件
		合 計	95件

平成22年5月28日

運輸安全委員会

## 船舶事故等調査報告書（軽微）一覧

### （函館事務所）

- 1 漁船第八十一久榮丸運航不能  
（機関損傷）
- 2 漁船第五十八英宝丸運航不能  
（機関損傷）
- 3 遊漁船第三十二大吉丸モーター  
ボート KURO 衝突
- 4 漁船成田丸運航不能（機関損  
傷）

### （仙台事務所）

- 5 漁船第八丸福丸モーターボート第  
五たか丸衝突
- 6 貨物船祥栄丸漁船貴宝丸衝突
- 7 漁船第3新栄丸漁船勝栄丸衝突
- 8 漁船拓央丸転覆

### （横浜事務所）

- 9 モーターボート海王丸水上オート  
バイ GP-R 衝突
- 10 貨物船若武丸乗揚
- 11 ケミカルタンカー三光丸引船光復  
丸台船若月衝突
- 12 液体化学薬品ばら積船菱心乗揚
- 13 水上オートバイ A5 1 衝突（水  
門）
- 14 水上オートバイ STX 1 2 0 0 -R  
水上オートバイ PEACE II ウェイク  
ボーダー負傷
- 15 漁船第一北斗丸運航不能（舵故  
障）
- 16 油送船第二十一豊栄丸油送船第二  
若島丸衝突
- 17 水上オートバイ鍋秀号水上オート  
バイ F・WIII 衝突

18 モーターボート JUSTICE 乗揚

19 警備艇はやま沈没

20 漁船第三林丸乗揚

21 教習艇むさし4 2号乗揚

22 教習艇むさし4 3号乗揚

23 消防艇はまかぜ衝突（鋼管杭）

24 作業船第七たちばな火災

25 プレジャーヨットシンシア乗揚

### （神戸事務所）

26 ケミカルタンカー第15伸興丸油  
タンカー第三八辰丸衝突

27 モーターボートチュンチュン運  
航不能（燃料不足）

28 漁船住吉丸漁船金刀比羅丸衝突

29 水上オートバイ YAGIKEN 水上オー  
トバイレスキュー搭乗者負傷

30 モーターボートハイドロE 4 0  
モーターボートミニIII 1 2号衝突

31 貨物船第六十八芳茂丸衝突（岸  
壁）

32 引船第八協栄丸はしけ双和1 1  
1号運航不能（冷却海水系統空気混  
入）

33 貨物船第一福德丸乗揚

34 貨物船第六十八芳茂丸衝突（岸  
壁）

35 押船大福丸バージN6乗揚

36 漁船信戎壱号丸運航不能（主機  
空気系統海水混入）

37 有害液体物質ばら積船第壱大昭丸  
海苔養殖施設損傷

38 押船大開2号衝突（岸壁）

39 貨物船祥輝丸衝突（灯浮標）

- 40 貨物船第八昭和丸乗揚
- 41 交通船第八ふじ快遊船巧誠衝突
- 42 液体化学薬品ばら積船第八東亜丸  
漁船生光丸衝突
- 43 引船とかちバージ神一5500衝  
突(岸壁)
- 44 油タンカーさんこう68衝突(観  
測システム塔)
- 45 貨物船SIBOR海苔養殖施設損傷
- 46 貨物船富士岩丸乗揚
- 47 砂利運搬船第五住福丸乗揚  
(広島事務所)
- 48 引船開洋台船D-305漁船幸吉  
丸衝突
- 49 貨物船SHINKEN ACE 衝突(灯浮  
標)
- 50 貨物船WIN LONG 漁船漁華丸衝突
- 51 引船第十二神峯山丸台船神峯5号  
かき養殖施設損傷
- 52 押船第二南城丸はしけ南城2号乗  
揚
- 53 貨物船CHANG AN 漁船龍美丸衝突
- 54 旅客船しらきさん巡視艇くがかぜ  
衝突
- 55 貨物船第八光昌丸乗揚
- 56 貨物船やさか衝突(陸上クレー  
ン)
- 57 漁船正福丸漁船第3善栄丸衝突
- 58 油送船裕鷹丸乗揚
- 59 押船マリンバージマリン18乗揚
- 60 漁船第18浦郷丸運航不能(機  
関損傷)
- 61 貨物船第二トクヤマ漁船繁恵丸衝  
突
- 62 貨物船KEOYOUNG GRACE 漁船忠弘  
丸衝突
- 63 漁船第12浦郷丸運航不能(機  
関損傷)
- 64 引船第三十八住吉丸台船SK10  
1乗揚
- 65 釣船第2新栄丸漁船晶丸衝突
- 66 油送船第二西本丸運航不能(機  
関損傷)
- 67 漁船第8蛭子丸モーターボート貞  
信丸衝突
- 68 貨物船善栄丸乗揚  
(門司事務所)
- 69 貨物船第二十六対州丸衝突(防波  
堤)
- 70 漁船第十八七海丸浸水
- 71 漁船第一宝漁丸運航不能(機関  
損傷)
- 72 貨物船MAPLE LEAF25 貨物船さぬ  
き衝突
- 73 貨物船RICH STAR 衝突(岸壁)
- 74 貨物船大祐丸漁船太閤丸衝突
- 75 液化ガスばら積船第三十七博晴丸  
漁船CHAHG YUNHO 衝突
- 76 漁船良宝丸漁船幸成丸衝突
- 77 漁船松福丸漁船住吉丸衝突
- 78 モーターボート金比羅丸乗揚
- 79 旅客船どりにむ運航不能(絡  
網)
- 80 漁船宝新丸乗揚  
(長崎事務所)
- 81 押船第二十八天翔丸クレーン台船  
八光三号乗揚
- 82 貨物船三幸丸乗揚
- 83 旅客フェリーフェリーきずな衝突  
(岸壁)

- 84 漁船一丸モーターボート国洋丸衝突
- 85 押船第一緑川丸クレーン付作業台  
船緑川号乗揚
- 86 旅客船かから丸衝突（防波堤）
- 87 漁船龍神丸漁船漁洋丸衝突
- 88 引船赤崎丸乗揚
- 89 押船第六あおい丸砂採取船第八  
あをい丸運航不能（舵板脱落）  
（那覇事務所）
- 90 漁船由美丸乗揚
- 91 漁船福丸乗揚
- 92 漁船明豊66号貨物船第16旭丸  
衝突
- 93 油送船 BELAIA 漁船千春丸衝突
- 94 遊漁船 SEAFIGHTER 乗用車損傷
- 95 漁船創大乗揚

## 船舶事故等調査報告書

平成22年4月22日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009横第250号
事故等種類	沈没
発生日時	不明（平成21年10月8日11時00分ごろ、神奈川県葉山町港湾管理事務所の職員が本船の沈没に気付いた。）
発生場所	神奈川県葉山町葉山港（新港） 葉山港A防波堤灯台から真方位145° 180m付近（概位 北緯35°17.0′ 東経139°33.0′）
事故等調査の経過	平成21年10月9日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。
事実情報	
船種船名、総トン数	警備艇 はやま、12トン
船舶番号、船舶所有者等	240-40311 神奈川、内閣府
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士
死傷者等	なし
損傷	船体外板に破口、機関、電気系統、航海計器等に濡れ損
事故等の経過	<p>本船は、平成21年10月6日、台風第18号の接近に備え、葉山港（新港）の南部に設置された楕形のポンツーンに船首を東方に向けて入船着けとした。</p> <p>船長は、フォアラインとして直径24～32mmのロープ5本を前方のコンクリート製護岸及びポンツーンに、アフトラインとして直径25～30mmのロープ5本を右舷後方のA防波堤及び後方の海底に這わせてあるアンカーチェーンに、ブレストラインとして直径24～32mmのロープ4本を左方のポンツーンに、スプリングラインとして直径24～32mmのロープ6本を左方のポンツーンにそれぞれ繋いだうえ、全ての開口部を閉鎖した状態で本船を係留した。</p> <p>船長は、翌日さらに各ラインを1本ずつ増し取りした。</p> <p>港湾管理事務所の職員は、10月8日11時00分ごろ本船の沈没に気付いた。</p>
気象・海象	<p>気象： 10月8日07時00分～11時00分の観測値は、次のとおりであった。</p> <p style="padding-left: 2em;">天気 雨のち曇り、風向 南から南西に変化、風速 10.0～18.3m/s、最大瞬間風速 19.5m/s（07時29分）</p> <p>海象： 事故当時の潮汐は、次のとおりであった。</p> <p style="padding-left: 2em;">高潮時刻 07時22分、潮高 142cm 低潮時刻 12時44分、潮高 87cm</p> <p style="padding-left: 2em;">10月8日09時00分における相模湾沿岸の波高 約7m、なお、石廊崎沿岸波浪計では、07時00分に有義波高約10.50m、有義波周期約14.5sが観測された。</p> <p>葉山港（新港）における観測情報：</p> <p style="padding-left: 2em;">事故当時の気象及び海象は、天気 曇りときどき雨、風向 南西、風速 平均22～23m/s、最大瞬間風速 約32m/s（08時30分ごろ）で、07時ごろから強風となり、南西からの波が10時ごろまで港</p>

	<p>の南西側にあるA防波堤を越えて港内に流れ込んだほか、07時30分～08時30分の間に約3回港内の海面がポンツーンの係留杭頂部まで上昇した。</p> <p>警報及び注意報： 横浜地方気象台は、神奈川県三浦半島地域に対し、10月7日10時00分大雨、強風及び波浪注意報を発表し、翌8日02時42分大雨、暴風、波浪等の各警報及び高潮等の各注意報に切り替えた。</p>	
<p>その他の事項</p>	<p>葉山港（新港）は、陸岸から北西方に伸びるA防波堤と陸岸から南西方に伸びる防波堤とで港口を形成し、北西方に向けて開口している。</p> <p>A防波堤は、略最低低潮面からの高さが約7m、幅約8mで、外側に箱状の消波ブロックがある。</p> <p>本線係留場所付近の損害状況は、次のとおりであった。</p> <p>(1) フォアラインをとっていたコンクリート製護岸（海面からの高さ約1.7m）の金属製手すり（高さ約1.2m）が折れ曲がり、護岸の手前側にあるポンツーン前縁部に本船の赤い船底塗料が付着していたほか、同ポンツーン上の金属製ビット2個が折損していた。</p> <p>(2) ブレストラインをとっていたポンツーンが折れて2分されていた。</p>	
<p>分析</p>	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>なし</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>本船は、葉山港（新港）内で係留中、台風の接近に伴って生じた波浪が防波堤を越える状況となり、船体が移動したため、ポンツーンなどに衝突して船体外板各部に破口を生じ、海水が船内に流入して浮力を失い、沈没したものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が台風接近に備えて葉山港（新港）内で係留中、波浪が防波堤を越える状況となり、船体が移動したため、ポンツーンなどに衝突して外板に破口を生じて船内に海水が流入し、浮力を失って沈没したことにより発生したものと考えられる。</p>	